

## 屋外広告物パネル展～「京<sup>みやこ</sup>の広告物」～の開催にあたって



京都市長 門川 大作

「京都のまちは一段と美しくなりましたね。」十数年ぶりに京都に来られた海外のお客様から、そんなお褒めの言葉をいただきました。

全国一厳しいとされる看板規制など、京都の町並み景観を守る取組や環境美化を市民ぐるみで進めてきた成果であると、うれしく、誇らしく思います。

京都市は3年前、50年後、100年後を見据えた「新景観政策」をスタートしました。以来、「京（みやこ）・輝き隊」をはじめ市民、関係事業者の皆様の御理解と御尽力により、京都の広告物景観は大きく改善されました。

そうした成果を多くの市民の皆様を知っていただこうと、この度、「京都市景観白書」を発行し、それに合わせパネル展を開催致します。

千年を超える歴史都市でありながら、147万人がいきいきと暮らす大都市でもある京都。京都が未来においても世界中の人々を魅了するまちであり続けるためには、京都に関わる皆様の御理解、御協力が必要です。

これからも共に力を合わせて、京都に暮らし、また京都を訪れる全ての皆様に、「日本に京都があってよかった」と実感いただけるまちづくりを進めて参りましょう！

最後になりましたが、本パネル展の開催に御協力をいただきました京都府広告美術協同組合はじめ関係事業者の皆様に心から御礼申し上げます。

2月10日京都市役所に懐かしい森下仁丹さんの珙瑯看板が、戦後始めて市役所に設置されました。

元々この看板を揮毫された当組合の組合員様よりご紹介頂き、市役所担当者と、森下仁丹さんの担当者と打ち合わせをしてこの日を迎えました。

x森下仁丹の駒村社長もインタビューで「この時代こそ昔ながらの技である揮毫の珙瑯看板が京都にふさわしい」と答えられておられ、コンピューター全盛期の今でこそ技が見直されると仰いました。

組合としては、取付費用については、組合を知って頂く一つの機会とすべく、無償で施工致しました。

この看板についての詳しい内容は森下仁丹ホームページにも掲載されています。当日はテレビ局数社、新聞記者などの取材もあり、テレビでも放映されました。